

再稼働の新基準作りの前に、東電が調査を妨害していた

福島 I-1 号機の非常用復水器（IC）系配管の実態調査を！

約4倍以上もの耐震性があると評価していた IC 系配管が破断していれば、
新基準作りは根本からやり直し

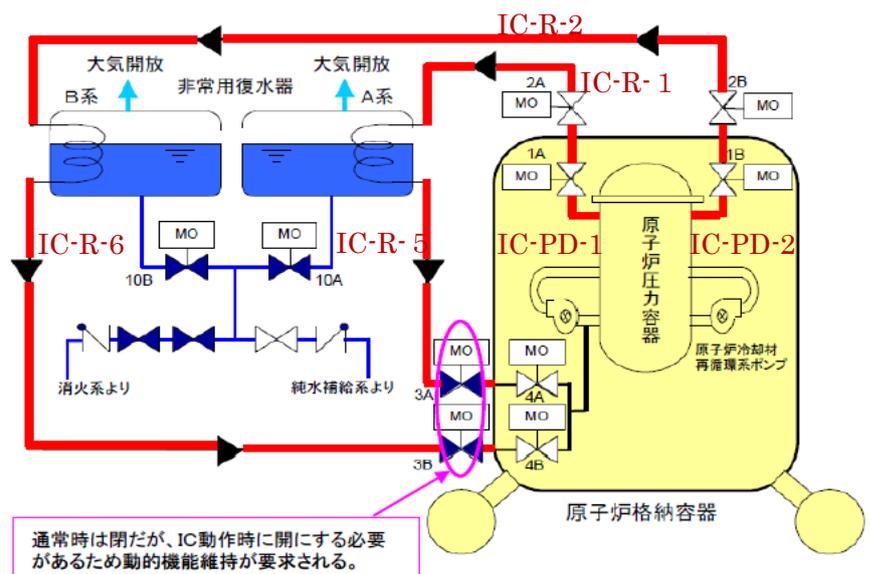
福島第一原発 1 号機では、早期に放射能が原子炉建屋内に漏出していた。その原因は地震動によって非常用復水器（IC）系配管が破損したことにありと推定される。その事実を隠すためか、東京電力は国会事故調査団の調査を故意に妨害したことが明るみにでた。再稼働のための新基準作りを急ぐのではなく、まず現場調査を含めて IC 配管の実態把握と検証を優先させるべきだ。

もし実際に、IC 系配管が地震で破損していればそれは何を意味するのだろうか。通常の耐震解析結果では、地震動が配管に働く力は下表の計算値が示すように、評価基準値の約 1/4 程度しかないので決して地震では壊れるはずがないと結論される。特に壊れた可能性が高いのは、格納容器から非常用復水器に蒸気を導く IC-R-1 または IC-R-2 であるが、それぞれ 4.4 倍、4.87 倍もの耐震性がある。それが実際には壊れたとならば、配管が相当に劣化していたか、耐震解析が間違っていたかのどちらかとなる。

現在の原発の安全性評価では、配管等は決して地震では壊れないことが大前提となっているが、その前提が成り立たないことになるので、安全評価の抜本的見直しが必要となる。

この問題は、現在パブコメが開始されている新基準骨子案の「地震・津波」だけでなく、「シビアアクシデント対策」「設計基準」全てに関係してくる。パブコメで、まず福島 I-1 号機の IC 系配管の調査を優先すべきと意見を送ろう。

2013. 2. 11 美浜の会



注) 通常時の弁の開閉状態を示す。 — : 評価対象配管

非常用復水器系概略系統図

構造強度評価結果

解析モデル	計算値 (MPa)	評価基準値*1 (MPa)	裕度
IC-PD-1	106	414	3.90
IC-PD-2	106	414	3.90
IC-R-1	94	414	4.40
IC-R-2	85	414	4.87
IC-R-3	105	310	2.95
IC-R-4	86	310	3.60
IC-R-5	75	351	4.68
IC-R-6	82	351	4.28

旧保安院資料下記 5-16~5-18 頁より

<http://www.nsr.go.jp/archive/nisa/earthquake/houkoku7/siryoku05.pdf>